18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
																		選者
銀竹や腕をぶら下げるがごとし	草氷柱みんなが走るから走る	焼印のごと手のひらを氷柱へと	恐竜の世界に恋のあり氷柱	合唱のとぎれとぎれに氷柱かな	人形のかすかに見ゆる氷柱かな	二重窓 氷柱の中に虫のゐず	ヨットの帆しまはれてをり草つらら	犇 ける 獣 の 星 座 い わ つ ら ら	合宿の窓に手を触れ初氷柱	見る度に降りる氷柱の淡い幕	あをぞらに満ち満ちてゐる氷柱かな	魔法陣窓になぞりぬ大氷柱	氷柱張るホテルの部屋に四の無く	昨日より細身の氷柱デートの日	人間に産声のあり氷柱かな	冷凍庫子はみてみてと氷柱かな	朝日差し傷失つた氷柱かな	俳句
"	"	洛南	"	"	攤 B	//	"	灘 A	//	"	長田	"	"	岡山朝日	"	"	大阪桐蔭	チーム名
前田 佑介	田村典	塩島 彰浩	物部知達	渡邊広脩	白坂 悠人	田村謙悟	大杉 悠真	岩瀬一誠	平本 みのり	本田 美佳	松井美優	寺石 有希奈	吉田 有希	末廣 陽奈	謝花優里	岡本 真奈	稲波 宏紀	作者

	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
																			選者
	白鳥翔つ薪に移ろふ炎のごとく	白鳥や皺ひとつなき旧紙幣	眠りつつみそかにすすむ鵠かな	白鳥の来てみずうみの硬きかな	白鳥やチャイムここまで聞こえたる	白鳥の脳飛ぶときは押されたり	白鳥の去りて真水の残りけり	なにもかも忘れて鵠みづを乞ふ	白鳥の百と二百と靄の中	白鳥やどの白よりも白く在る	漕ぐ君の結わえた髪にも白鳥	夢を見る君もいずれは白鳥か	夕暮のチャイムよぎりぬ大白鳥	白鳥や目尻のラインはね上げて	白鳥や珈琲缶をそつと開け	悪役になれぬ白鳥来たりけり	白鳥や水鉄砲じゃむりだった	湖の堅く白鳥迎へたる	俳句
	"	"	洛南	"	"	灘 B	"	"	灘 A	"	"	長田	"	"	岡山朝日	"	"	大阪桐蔭	チーム名
	田村典	塩島 彰浩	河本 高秀	渡邊広脩	白坂 悠人	物部知達	安東 俊喜	大杉 悠真	岡本 龍太郎	松井美優	平本 みのり	本田 美佳	平野 直太郎	寺石 有希奈	吉田有希	謝花優里	稲波 宏紀	秋葉 紅杏	作者

	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
																			選者
	凍豆腐食へばほぐるる股関節	玄関を河豚河豚と言ひながら来る	北風や機関時計いつも二時	機関砲台座跡割れ月凍る	機関庫に冬日のうすく張ってゐる	玄関に靴の増えたる晩夏光	聖夜のパエリア 関所は生けるものの道	機関車にヘッドマークや芝青む	凍空のもと関節が鳴つてしまふ	関節が痛む新年のびざかり	立冬や下関を背に帰路に着く	宝物埋めし枯野や関ヶ原	初日の出永久機関見つけたり	冬 菫 機 関 人 形 い ざ 行 か む	冬天や玄関を掃く音かろく	山眠るダムの関門錆びてをり	水仙や玄関前のランドセル	郷関を押し広げたる初雀	俳句
	"	"	洛南	"	"	攤 B	"	"	灘 A	"	"	長田	"	"	岡山朝日	"	"	大阪桐蔭	チーム名
	河本 高秀	田村典	塩島 彰浩	物部知達	渡邊 広脩	白坂 悠人	大杉 悠真	田村謙悟	岡本 龍太郎	松井美優	本田 美佳	平本 みのり	吉田有希	平野 直太郎	末廣 陽奈	謝花優里	秋葉 紅杏	稲波 宏紀	作者

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
																				選者
予備の予備のトイレットペーパー京雑煮	ひとはみな脳髄浮かべゐて雑煮	コンロまで雑煮よそひに歩きけり	いづくにか置かむ雑煮の鰤の骨	父親に京都訛りや雑煮祝ふ	白味噌の雑煮の朝や父踊る	はしゃぐ子の赤いほっぺに雑煮かな	ちゃぶ台の目鼻の如く雑煮かな	昼前の冷めぬ雑煮の作り置き	親も子もみんなで囲む雑煮かな	御先祖へたつたひとつの雑煮餅	雑煮食ふジグソーパズル未完成	雑煮食ふ昼や碁は長考のまま	キャプテンに勝たせてもらひ雑煮椀	雑煮餅をさなの頬に墨のあと	童謡に方言のある雑煮かな	餅みっつ足して雑煮に勢力図	雑煮食ふ兄ペンだこの指添へて	雑煮餅母に秘密のありにけり	九天の欠片の落ちて雑煮餅	俳
"	//	"	"	灘 A	"	"	"	"	長田	"	//	"	"	岡山朝日	//	"	"	"	大阪桐蔭	チーム名
岩瀬一誠	大杉 悠真	岡本 龍太郎	田村謙悟	安東 俊喜	平本 みのり	松井美優	平本 みのり	本田 美佳	松井美優	平野 直太郎	寺石 有希奈	末廣 陽奈	吉田有希	末廣 陽奈	謝花優里	若園 風司	秋葉 紅杏	岡本 真奈	稲波 宏紀	作者

					30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番号
															選者
					未来にも未来ありけり雑煮食ふ	母親の遊び心の雑煮かな	ベッド椅子わたし電球雑煮餅	雑煮食ふ姿似てゐて共白髪	お雑煮や近所の子らを呼び集め	恥じらいの徐々に浮かんで雑煮かな	この街は新しい街雑煮食う	祖母作る雑煮もどきは雑煮かも	口紅のほのかに残る雑煮碗	まだ夜の街に雑煮を仕込みをり	俳句
					"	"	"	"	洛南	"	"	"	"	灘 B	チーム名
					田村典	前田 佑介	塩島 彰浩	河本 高秀	田村典	渡邊 広脩	酒井 涼	物部知達	白坂 悠人	酒井 涼	作者